

2023 期 第 5 回 ディスカッション
テーマ 3 「日本における IFRS の適用義務」

3 班

B 案：適用を義務とすべきでない

日本において IFRS の適用を義務とすべきではありません。その理由を以下になります。

1. 日本基準か IFRS かの任意適用であることは企業にとって有益

日本の企業における IFRS の適用のメリットは、資金調達の方法が増えることです。というのも、IFRS は国際的に通用する企業会計の基準であるため、外国人投資家から資金調達がしやすくなるからである。一方でデメリットは、導入に費用と時間がかかり、事務負担が増大することです。というのも、IFRS に基づいて財務諸表を作り上げなければならないため、そのための人材育成や IFRS に対応した会計システムの構築や既存の会計システムの変更による費用と時間がかかってしまうからです。現行の制度においては IFRS の適用は任意となっており、IFRS の適用によるメリットがそのデメリットを上回る企業は IFRS を適用することができて、一方で、IFRS の適用によるデメリットがそのメリットを上回る企業は IFRS ではなく、日本基準を適用することができます。しかし、仮に IFRS の適用が義務となった場合、IFRS の適用によるメリットよりもデメリットが大きい企業についても IFRS を適用することになってしまいます。そのため、任意適用であることが日本の企業全体にとって有益であると考えられます。

2. 日本基準で十分

日本の会計基準はこれまでの努力の結果として高品質かつ国際的に遜色のないものとなっており、欧州より国際会計基準と同等の評価を受けています。さらに最近では、「収益認識に関する会計基準」が作られ、「リース会計基準」の改訂も行われ、コンバージェンスがなされている現状であります。したがって、より一層国際会計基準と同等の評価を受けることとなっています。このように日本の会計基準は実務負担も踏まえながら、少しずつ国際会計基準に近づいていることを踏まえると、ここで国際会計基準を無理に強制適用させることは、日本の経済状況も加味し、これまで慎重にコンバージェンスを行ってきた努力が水の泡になってしまうのではないかと考えます。そのため、国際会計基準の適用を義務付けるのではなく、これまで通り日本の会計基準の適用を認めるべきです。

参考文献

[IFRS\(国際会計基準\)とは? 日本基準との違いや導入のメリットやデメリットを解説 | クラウド ERP 実践ポータル \(clouderp.jp\)](https://clouderp.jp/ifs/)